



# 10月のほけんだより

令和2年10月号  
第一ルンビニ園

爽やかで心地良い秋風によって、真っ赤に色づいた赤とんぼがみられるようになりました。子ども達が目を輝かせて追いかけてる姿が可愛らしいこの頃です。コロナ渦で外出も減ってきていると思いますが、親子でお散歩にでかけるなどして、移りかわる秋を満喫してみましょう。又、手洗いや消毒マスクの着用で感染症の予防にも努めていきましょう。



## 《 園児の健康状況 》

- ☆ ひまわり組（3歳児）で溶連菌感染症が1名でしたが、その後の広がりはありませんでした。
- ☆ すみれ組（4歳児）で水痘（みずぼうそう）のお友だちが1名でした。個人差もありますが、微熱や37~38℃くらいの発熱と同時に体のやわらかいところ（顔・体幹・頭など）にかゆみの強い水泡様の発疹が次々に広がっていくのが特徴です。潜伏期間が約14日間ありその後の発生はみられませんが、感染力が強く予防接種を受けていても感染する場合があります。今後のお子さんの体調観察をよろしくをお願いします。発疹がかさぶたになるまでは登園不可となりますのでかかりつけ医の指示を仰いでくださるようお願いいたします。

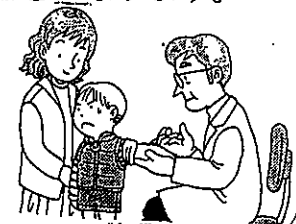


## 《 内科健診のお知らせ 》

10月1日（木）島田クリニック院長先生による内科健診が午後13時30分より行われます。当日は欠席しないようにしましょう。ご質問やご相談のある方は担任または看護師までお知らせください。

ロタウイルスワクチンが2020年10月より任意接種から定期接種に変わります

今回の定期接種化で、これまで有料だったロタワクチンが無料となり多くの赤ちゃんが接種でき、ロタウイルスによる胃腸炎から守られることとなります。発症のピークは、生後6か月~2歳でほぼ全ての乳幼児が3~5歳まで感染し発症するとされています。接種可能な月齢かをかかりつけの病院で相談してみましょう。又、インフルエンザワクチンの接種も始まります。



新型コロナウイルスの収束が見えない状況の中、これからインフルエンザが流行する季節を迎えます。両者は症状で区別することが難しいため、インフルエンザに關してはワクチンを接種し、可能な限り予防しておきたいものです。ただ、多くの方が接種を希望して医療機関を受診すると、重症化しやすい高齢者が接種できなくなる恐れがあります。このため国は、65歳以上のの人について、10月1日から接種を早期に進めるよう促す方針を示しました。高齢者はかかりつけ医と相談し、ぜひ早めの接種をお願いいたします。

## インフルは高齢者優先

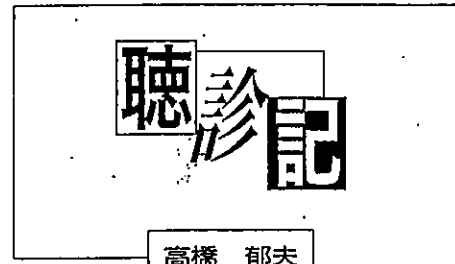
では任意接種で、高額な自己負担がネックとなり接種をためらう例も多くみられました。今回定期接種となるのは、今年8月以降に生まれた乳児に限られる点に注意が必要ですが、乳幼児がロタウイルスに感染すると嘔吐や発熱、下痢などの症状が他の胃腸炎ウイルスよりも強く表れ、点滴や入院が必要となることも多いため、ワクチンで重症化を防ぐ効果は大きいと考えます。

予防できる病気が増えるのは良いことですが、その分接種する本数が増え、赤ちゃんだら何回も病院に通わなくてはならず、接種を完了するまで時間がかかりました。ワクチンは病気を軽く経験させて抵抗力をつけるためのものであり、種類が異なる場合はできるだけ間隔を空けたほうが抵抗力がつき、副反応も少ないと考えられています。

しかし、ワクチンの進んだ各国の経験から、異なるワクチンの接種間隔の制限は必然でないことが分かってきました。こうして日本も今回、世界標準に近づいてきたのです。例えば、麻疹ワクチンを受けた後、次にインフルエンザワクチンを打つためには、これまでなら4週間空けていました。その縛りがなくなり、もっと早い段階で次を接種できるようになります。

ただ、注射の生ワクチン同士（麻疹と水痘など）に限っては従来通り、4週間空けなければなりません。詳しくはかかりつけ医に確認し、接種のスケジュールを前もって組み立てましょう。

## ワクチン接種



接種が可能な月齢かを確認し、小児科で相談してみてください。もう一つは、異なる種類のワクチンを接種する際の間隔制限が大幅に緩和されることです。ワクチンに關して日本は後進国とされ、ここ10年でようやく世界水準に近づいてきました。ロタワクチンが世界に遅れ、やっと定期接種となるのもその表れです。